

『宮本敬之助（18W）さんの思い出』

群大山岳部 OB が最も敬愛し、長年にわたって尊敬し親しくさせていただいた宮本敬之助さんが、昨年 12 月 15 日に亡くなりました。2020 年 1 月 2 日、98 歳の誕生日直前のご逝去でした。

宮本さんは、利尻島の環境省パークボランティアなどをはじめとして、多くの環境保全活動に参加され、地域の人々と交流を深め、自然保護に貢献されてきました。我々仲間も度々利尻島を訪れました。

尾瀬もこよなく愛されて長蔵小屋を拠点に宮本さんの仲間がたくさんおりましたし、北海道をはじめとして全国に多くの同志や仲間が宮本さんの周りに集まってきました。

さらに宮本さんは我々の群大仙之倉山荘を懐かしみ度々訪れ、東京農大教授である息子さんや、学生さんと共に、仙之倉谷の植物調査などにも先頭に立って、案内していただきました。

詳しくは、群大山岳部 OB 会ホームページ(<http://www9.wind.ne.jp/guac/>)の「宮本だより」をご覧ください。20 年に及ぶお便りが掲載されております。

昨年宮本さんは、息子さんとお孫さんを伴われて 9 月 7 日群大仙之倉山荘 85 年記念祭に参加されました。山荘をバックにした宮本さんの元気なお姿をご覧ください。



そして早速、宮本さんから 2019 年 9 月 19 日付けのお便りが届いております。

「山荘創建 85 年記念祭に際して、皆様に格別なお言葉を戴きありがとうございました。棒ほど願って針ほど叶うと昔からのたとえ、最近の老耄状況にては難しいかなと思いつつもせめてゲートまで行けばと思いつながら、ゲートに行く途中で二の字の頭の向こうに仙之倉山の山頂が見えるので楽しみに東上しました。私の信条として世外人は参加しないことこそなし得る最大の協力とと思っていましたが、息子や孫たちの熱にほだされ形になってしまいました。

滋賀県の大津からという清水さんにゲートでお遣いできたのは幸せでした。日白沢以遠の山路も立派に修復されていて有難いことと思えました。平沢さんをはじめとして、下田さん相川さん荒井さんなど懐かしい顔を拝し何よりでした。そして私も生き方の低迷を拭き去りました。

今まで、今の命は余禄、地獄の命のロウソクがちょっと長いだけ、今日一日生きたらそれで可な

ことでしたが、新しい生き方として目標を持ちました

第一目標 2020年1月2日まで 満98歳

第二目標 2021年1月2日まで 満99歳

まで 少なくとも孫、曾孫の語り草となるような人間らしく生きることです。

勝手な夢物語とお笑ください。望月さんも元気でうれしかったです。皆様によろしく」

そして非常に残念なことですが、御息 宮本太様より、電話とメールを通して2019年12月15日ご自宅でご逝去されたことと連絡を受け、さらに新年には太様より以下のお便りと写真を郵便でいただきました。

「敬之助が大変お世話になりました。皆さんのおかげで楽しい時が持て、幸せだったと思います。戦争という大変な時代を生き抜いて、豊かで平和な時代を築き上げてきたのは敬之助の世代だと思います。

この写真は敬之助が学生時代、あの山小屋の前で蓄音機を担ぎ上げ、至福の時にタバコ吸って平標を見上げているのは敬之助です。きっと”小さな喫茶店“を聴いているのだと思います。この歌は私が小さい時からよく歌っていました。私も歌えます。しかし、この山小屋で共に過ごした仲間はほぼ戦死したそうです。

だから敬之助はその仲間の分も生き抜いたのだと思います。そしてそこに皆さんの新しい仲間が加わり、楽しい時を持てたと思います。本当にありがとうございました 29Dec.2019」



宮本さんをしのいで“小さな喫茶店で”と一緒に唄っていただくとありがたいです。旧工学部松井研究室の愛唱歌も”In einer Kleinen Konditorei”だったそうです。どちらでも構いません、一緒に歌いましょう。

望月は、宮本さんから愛する高山植物や植生の説明を受けながら、尾瀬、裏燧、桧枝岐などを案内していただきました。今でも私の大切な思い出です。

山岳部 OB 望月恭一 (35C) 記